

第6回中部国際空港将来構想推進調整会議検討部会 議事録

1 日時

令和3年12月16日（木）午後4時から午後4時40分まで

2 場所

名古屋銀行協会 2階 201号室

3 出席者

加藤 一誠	慶應義塾大学教授
秀島 栄三	名古屋工業大学教授（Web参加）
中野 牧子	名古屋大学准教授
森 哲也	愛知県都市・交通局長
前田 寛徳	岐阜県都市公園整備局公共交通課長
板倉 秀昭	三重県地域連携部交通政策課広域交通企画班長
河田 誠一	名古屋市総務局企画調整監
田中 豊	名古屋商工会議所常務理事・事務局長
小川 正樹	一般社団法人中部経済連合会専務理事
櫻井 俊樹	中部国際空港株式会社代表取締役副社長
各務 正人	中部国際空港株式会社特別顧問

<オブザーバー>

塩田 昌弘	国土交通省大阪航空局空港部長
駒井 繁利	国土交通省大阪航空局中部空港事務所長

4 主な議事

事務局から、12月14日開催の第2回中部国際空港将来構想推進調整会議において決定された『中部国際空港の将来構想』、パブリック・コメントの実施について説明を行い、意見交換を行った。

パブリック・コメントについては、説明のとおり実施することとなった。

5 主な発言

- ・今後、航空需要の増加に向けた取組や住民に対する説明などを行うことになると思うが、地元が熱くなることが大事だと思う。経済界も中部国際空港に寄り添って地域を盛り上げていただきたいと思う。
- ・漁業者への丁寧な説明や環境対策もしっかり行って、多くの方に喜んで利用してもらえる空港になれば良いと思う。
- ・（B滑走路については、）需要面よりも、維持管理の面で必要性が高いと感じており、

このことをより多くの人に理解いただく必要があると思う。

- 需要の掘り起こしにあたって、将来構想は大きなツールになると思っており、空港会社としてもしっかり取り組んでいく。B滑走路の実現に向けては、今後、施設計画に対するパブリック・インボルブメントや環境影響評価といった重要な手続があるので、こちらについてもしっかり取り組んでいく。
- 将来構想がとりまとめられた以上、後戻りはできない。まずはB滑走路の整備に向けて、パブリック・インボルブメント、費用対効果、環境影響評価などの手続を整理して、着実に進めていくことが大事だと思う。大部分の主体は空港会社であるが、地域の関係者、特に推進会議を構成する3県1市、経済界の皆様のバックアップがなければ、進むものも進まないなので、引き続きよろしくお願ひしたい。
- 国内の主要空港の中で中部国際空港だけが複数滑走路を有しない状況の中、将来構想がとりまとめられたことは本当に素晴らしいことだと思う。那覇空港に第二滑走路が整備された時には、現場から、滑走路が複数あると安心感が全く違うという声を聞いた。今後、中部国際空港をPRするにあたって、複数滑走路を有することは大きな武器になると思う。国としてもサポートできることは取り組んでいきたい。
- 将来構想がとりまとめられて、今後の（具体的な）計画実施の段階においては、地域の方々、経済界の皆様の思いをしっかり受け止めて、現地でできることが何かを考えながら、皆様とともに建設的に進めていきたいと思う。
- 今後、地元企業に中部国際空港をより多く利用してもらえるよう改めて取り組んでいきたい。また、アウトバウンドだけでなく、観光を中心としたインバウンドについても海外にしっかりPRしていき、中部国際空港がより盛り上がり、この地域、日本のための空港になるように精一杯取り組んでいきたい。
- 中部圏全体が一枚岩になって、中部国際空港を盛り上げていくことが非常に大切だと思う。経済界として、人流も物流もすべて中部国際空港を利用してもらおう、という意気込みで活動していきたい。
- 今後、リニア中央新幹線の開業を見据え名古屋駅周辺が再整備されることもあり、中部国際空港がより便利になるように努めていかなければならないと思っている。インフラの整備と航空需要の増加の両方について、しっかり努力していきたい。
- 改めて漁業関係者の方への丁寧な説明が必要だと思う。また、財源スキームや費用対効果など様々な課題があると思うので、十分に意見交換していきたいと思う。
- 将来構想は各種産業の更なる振興につながるものとして大変期待している。需要の回復・拡大に向けては、一宮西港道路を始めとするアクセス道路の整備やリニア中央新幹線の建設を進めていくことが重要だと思う。3県1市、経済界がしっかり調整して進めることが大変重要である。
- 将来構想はとりまとめられたが、来年度からの環境影響評価に向けて、スピード感を持って取り組む必要がある。

以上